



北越公用記録

公裁規定

73  
3345  
13



門 7 保 3  
號 534  
卷 13

# 公裁規定

- 一 日出表書初判之事
- 一 裁許修馬表書加判之事
- 一 津領一地的地法出入并改式取扱之事
- 一 舟取上再所并節遠取之事
- 一 評定所若若、度、所出入之事
- 一 洪谷人形分取者、各所并裁許法在事
- 一 公事吃味銘、者、法、事
- 一 市津江入評定取一也領地出入取事
- 一 用水惡水并新田堤川所等出入之事



發友早早治氏遺愛之記

- 一 論形及分在也江きて事
- 一 海所及分何去陸國も事書義と事
- 一 裁許の取用也極ち事
- 一 寺社方所認る取柄も事
- 一 深詔文押の取つる事
- 一 盜賊大付詮後取らる事
- 一 四悪所仕事
- 一 裁許并書去ふ法も所仕事
- 一 國所除取の取も國所君道も所仕事
- 一 隱鉄炮方も所仕事
- 一 留場も取柄も所仕事
- 一 村の元名も事
- 一 悪意も所仕事
- 一 密通所仕事
- 一 深詔極取の取も所仕事
- 一 火札張札控の取も所仕事
- 一 出入扱取の取も所仕事
- 一 二重賃二重去入二重賃所仕事
- 一 村方出入も所仕事
- 一 宿難用も所仕事
- 一 人別も所仕事
- 一 贈賂も所仕事
- 一 所仕事

- 一 地所對漁浦之上以徒黨如所為言此浦仕並之事
- 一 身障限中女乃之事
- 一 之糾中付乃之事
- 一 田地永代賣買并外隱地之浦仕並之事
- 一 質地少元取樹之事
- 一 質地所色日限之事
- 一 借金銀取指之事
- 一 借金銀取指之借之事
- 一 借金銀分數中乃之事
- 一 家傳系取本長法所支取之取指之事
- 一 家傳系取浦日限定之事

- 一 廻私物出賣出買并船中物押領之浦仕並之事
- 一 借金銀白成子形之浦銀借債若浦仕並之事
- 一 偽之證文及浦中銀流代借之浦仕並之事
- 一 復在浦中取指之事
- 一 有公人持浦仕並之事
- 一 有官女公浦仕並之事
- 一 捨子以浦仕並之事
- 一 出取取在女身之出之若之事
- 一 女把之借浦仕並之事
- 一 新親浦仕並之事
- 一 新親浦仕並之事并寄信多說浦仕並之事

一 妻死に在りて泣き言ひて寺院に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

一 盜賊に法を修す事

- 一人相書云云
- 一人科人
- 一拷問
- 一遠島
- 一牢板
- 一市科人
- 一溜
- 一宿
- 一
- 一
- 一

- 一人科人
- 一
- 一
- 一
- 一
- 一
- 一
- 一
- 一
- 一

一 燈籠 移入 名送 了 心 事 一 加 入 事  
 一 帶 刀 以 事 一 古 姓 所 人 心 仕 立 事  
 一 新 田 比 々 無 事 而 家 心 加 入 事  
 一 市 外 各 々 事 一 將 親 於 燈 籠 事 而 於 於 事 一 事 事 事  
 一 事 事 諸 事 打 入 日 帳 而 事 形 事 事 事 事 事 事 事  
 一 燈 籠 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事  
 一 名 目 燈 籠 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事  
 燈 籠 格 別 事 事

一 燈 籠 事 一 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事  
 一 燈 籠 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事  
 一 門 前 拂 止 院 門 燈 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事

目安書初判之事

従前之例

寺社并寺社領園八物之外

一 私領園八物之内

寺社領御府内免了出入

延享三年極

江戸町中寺社領之所

一 寺社門人并境内借地之

女之出入、免了出入

園八物御領松願園八物

一 其外御料御府内

月當  
寺社奉行  
表出

月當  
町奉行  
表出

月當  
御助三奉行  
表書



了りし出入

右双方名主の家之主に此之文合すお承若し不持明之旨目  
双方に於出入の事書す事

但し此書は了りし出入の指定所、一に出入双方の  
所、一に其奉行所、一に裁許了りし所、一に國の出入  
出入の年月日及び評定所、此出入の對等の事書す  
此三事有り、御、月日、一初判一應加す

享保七年極

一山城

大和

近江

丹波

一和泉 河内

但双方共右四ヶ國之者、一京都所奉行の御

攝津 播磨

大坂町奉行

但右日所大坂町奉行の御

右八ヶ國之内、一京都大坂町奉行の御、一關國に  
惣了りし出入の事、社奉行の月書、一初判、右双方共  
日所、此の出入の事、奉行所、此の奉行所、此の御  
一、後取揚中、御奉行

裁許繪圖之書加判す事

一國境 郡境

裁許 繪圖

但右、外、此、事、書、裁、許、の、事、御、奉行、御

中領一地区の出入を記述するもの事

享保六年極

一 遠國より支那の代官所并松原百地地、其の出入  
其の印より市代及地代百地有る事、其の出入の記述  
其の内百姓の出入の事、其の出入の事

一 一地区の出入を記述するもの事、其の出入の事、  
其の出入の事、其の出入の事、其の出入の事、  
其の出入の事、其の出入の事、其の出入の事、  
其の出入の事、其の出入の事、其の出入の事、

寛保三年極

一 一地区の出入を記述するもの事、其の出入の事、  
其の出入の事、其の出入の事、其の出入の事、

可然なる事、其の出入の事、其の出入の事、  
其の出入の事、其の出入の事、其の出入の事、

寛保三年極

追加

一 一地区の出入を記述するもの事、其の出入の事、  
其の出入の事、其の出入の事、其の出入の事、

同

一 一地区の出入を記述するもの事、其の出入の事、  
其の出入の事、其の出入の事、其の出入の事、

一 一地区の出入を記述するもの事、其の出入の事、  
其の出入の事、其の出入の事、其の出入の事、

一 一地区の出入を記述するもの事、其の出入の事、  
其の出入の事、其の出入の事、其の出入の事、

わく二取とて成体事

無取と再新並に造り事

一諸般一出とて一區の造りと物未だ造らざる中

一取出と造り一付とて一區の造り出とて二料下

但より所、取出とて一區の造り出とて二料下

并造り中、造り出とて一區の造り出とて二料下

取と造り出とて一區の造り出とて二料下

一親子兄弟共、親族等、取出とて一區の造り出

とて一區の造り出

一造り出と造り出とて一區の造り出とて一區の造り出

付と再取造り出とて一區の造り出とて一區の造り出

与らとて取とて奉行所とて取とて一區の造り出

但難之造奉行所とて一區の造り出とて一區の造り出

中出とて取とて寺院等、取出とて一區の造り出

一三奉行所、不許出直、取定所、所取出とて一區の造り出

より所、取出とて一區の造り出とて一區の造り出

一取とて一區の造り出とて一區の造り出

一親族等、取とて一區の造り出とて一區の造り出

人、取とて一區の造り出とて一區の造り出

○評定所、取とて一區の造り出とて一區の造り出

一評定所、取とて一區の造り出とて一區の造り出

取とて一區の造り出とて一區の造り出

此等事皆不為人所知也... 此等事皆不為人所知也... 此等事皆不為人所知也...

一 長也  
一 為之也

何五五  
江一

此等事皆不為人所知也... 此等事皆不為人所知也... 此等事皆不為人所知也...

一 長也  
一 為之也  
一 公事也  
一 為之也  
一 公事也  
一 為之也  
一 公事也  
一 為之也

但心成信也

○言中位人評定し其後必成也

中位申

西向人

人及中位也

若身事也

少側元

評定也一升

右（之）位也海内良也自中位裁許し其後向ふ

但位也其後合諸事の成る也其後必成也

○用也其後必成也其後必成也

一 位也其後必成也其後必成也

入許也其後必成也其後必成也

今之世也其後必成也其後必成也

其後必成也其後必成也

○其後必成也其後必成也

一 其後必成也其後必成也

區也其後必成也其後必成也

使也其後必成也其後必成也

一 其後必成也其後必成也

少位也其後必成也其後必成也

其後必成也其後必成也

長巻

一 品 中 之 佛 亦 可 入 修 行 矣 其 事 亦 不 可 不 知 也 地 以 其 故 夫 亦 如 此 也

○ 德 宗 亦 不 可 不 知 也 其 事 亦 不 可 不 知 也

一 高 宗 亦 不 可 不 知 也 其 事 亦 不 可 不 知 也

○ 德 宗 亦 不 可 不 知 也 其 事 亦 不 可 不 知 也

一 高 宗 亦 不 可 不 知 也 其 事 亦 不 可 不 知 也

一 高 宗 亦 不 可 不 知 也 其 事 亦 不 可 不 知 也

一 高 宗 亦 不 可 不 知 也 其 事 亦 不 可 不 知 也

一 高 宗 亦 不 可 不 知 也 其 事 亦 不 可 不 知 也

一 高 宗 亦 不 可 不 知 也 其 事 亦 不 可 不 知 也

○ 德 宗 亦 不 可 不 知 也 其 事 亦 不 可 不 知 也

一 高 宗 亦 不 可 不 知 也 其 事 亦 不 可 不 知 也

一 高 宗 亦 不 可 不 知 也 其 事 亦 不 可 不 知 也

一 高 宗 亦 不 可 不 知 也 其 事 亦 不 可 不 知 也

○ 德 宗 亦 不 可 不 知 也 其 事 亦 不 可 不 知 也

一 高 宗 亦 不 可 不 知 也 其 事 亦 不 可 不 知 也

一 高 宗 亦 不 可 不 知 也 其 事 亦 不 可 不 知 也

一 高 宗 亦 不 可 不 知 也 其 事 亦 不 可 不 知 也

一 高 宗 亦 不 可 不 知 也 其 事 亦 不 可 不 知 也

一 高 宗 亦 不 可 不 知 也 其 事 亦 不 可 不 知 也

一 高 宗 亦 不 可 不 知 也 其 事 亦 不 可 不 知 也

一 破作物に要するものなり

一 本社に在る地味地味に在るものなり

一 本社の地味地味に在るものなり

一 本社の地味地味に在るものなり

一 本社の地味地味に在るものなり

一 本社の地味地味に在るものなり

○ 本社の地味地味に在るものなり

一 本社の地味地味に在るものなり

一 本社の地味地味に在るものなり

○ 本社の地味地味に在るものなり

一 本社の地味地味に在るものなり

一 本社の地味地味に在るものなり

○ 本社の地味地味に在るものなり

一 本社の地味地味に在るものなり

一 本社の地味地味に在るものなり

一 本社の地味地味に在るものなり

一 本社の地味地味に在るものなり

一 本社の地味地味に在るものなり

一 本社の地味地味に在るものなり

一 本社の地味地味に在るものなり

一 本社の地味地味に在るものなり

一 本社の地味地味に在るものなり

右の四書... 科... 一... 二...

世... 月... 年... 日... 時... 分... 秒...

一 觀... 一 觀... 一 觀...

中... 西...

一 觀... 一 觀... 一 觀...

中...

○... 一...

一 周... 一 周...

中...

一 周... 一 周...

中...

一 周... 一 周...

中...

一 周... 一 周...

一 周... 一 周...

中...

一 周... 一 周...

一 周... 一 周...

一 周... 一 周...

一 周... 一 周...

一 周... 一 周...

一 周... 一 周...

右... 中... 西... 東... 南... 北...



少地

江戸千石  
石ノ千石  
石ノ千石  
石ノ千石

西

石ノ千石  
石ノ千石  
石ノ千石  
石ノ千石

一 江戸千石  
石ノ千石

一 江戸千石  
石ノ千石

一 江戸千石  
石ノ千石

一 江戸千石  
石ノ千石

石ノ千石  
石ノ千石

長

一 江戸千石  
石ノ千石

一 江戸千石  
石ノ千石

一 江戸千石  
石ノ千石

一 江戸千石  
石ノ千石

一 江戸千石  
石ノ千石

一 江戸千石  
石ノ千石

一 江戸千石  
石ノ千石

石ノ千石  
石ノ千石

一 江戸千石  
石ノ千石

一 陸奥女子

一 陸奥女子

一 陸奥女子

一 陸奥女子

一 陸奥女子

今年の月新音長は也

古のり

才の意一品我 節一九九

高計音段

三科

三科

去年の月新音長は也

去年の月新音長は也

一 陸奥女子

去年の月新音長は也

去年の月新音長は也

一 陸奥女子

去年の月新音長は也

去年の月新音長は也

一 陸奥女子

去年の月新音長は也

一 陸奥女子

死鬼

一日のせきりふきあはれりとの 口は

但願陽のまの光をくさるるをわらわしきと云ふはなやと云ふはな

はなはなはなはなはなはなはな

一 神の御名をよむ

一 神の御名をよむ

一 神の御名をよむ 重なる

但願のまの光をくさるるをわらわしきと云ふはなやと云ふはな

一 神の御名をよむ 重なる

一 神の御名をよむ 重なる

但願のまの光をくさるるをわらわしきと云ふはなやと云ふはな

○ 神の御名をよむ

一 神の御名をよむ 重なる

一 神の御名をよむ 重なる

一 神の御名をよむ 重なる

一 神の御名をよむ 重なる

但願のまの光をくさるるをわらわしきと云ふはなやと云ふはな

一 神の御名をよむ 重なる

一 神の御名をよむ 重なる

一 神の御名をよむ 重なる

一 神の御名をよむ 重なる

世に事あるを教はれりては其の心は  
心は

一 世に事あるを教はれりては其の心は

心は

一 世に事あるを教はれりては其の心は

心は

世に事あるを教はれりては其の心は

一 世に事あるを教はれりては其の心は

心は

一 世に事あるを教はれりては其の心は

心は

世に事あるを教はれりては其の心は

一 世に事あるを教はれりては其の心は

一 世に事あるを教はれりては其の心は

心は

一 世に事あるを教はれりては其の心は

心は

一 世に事あるを教はれりては其の心は

心は

一 世に事あるを教はれりては其の心は

心は

一 世に事あるを教はれりては其の心は

心は

一 世に事あるを教はれりては其の心は

心は

一 ありては女路書にありて市をうらむ  
とあるは女路書にありてあり

中絶及

○ 妊産極くは産を重くしつゝの事

一 妊産極くは産を重くしつゝの事  
一 妊産極くは産を重くしつゝの事  
一 妊産極くは産を重くしつゝの事

一 妊産極くは産を重くしつゝの事  
一 妊産極くは産を重くしつゝの事

中絶及

○ 古丸淫丸淫丸と云ふのは

一 古丸淫丸淫丸と云ふのは  
一 古丸淫丸淫丸と云ふのは  
一 古丸淫丸淫丸と云ふのは

中絶及

○ 古丸淫丸淫丸と云ふのは

一 古丸淫丸淫丸と云ふのは  
一 古丸淫丸淫丸と云ふのは  
一 古丸淫丸淫丸と云ふのは

右の事

一 古丸淫丸淫丸と云ふのは  
一 古丸淫丸淫丸と云ふのは  
一 古丸淫丸淫丸と云ふのは

右の事

一 古丸淫丸淫丸と云ふのは  
一 古丸淫丸淫丸と云ふのは  
一 古丸淫丸淫丸と云ふのは

右の事

一 古丸淫丸淫丸と云ふのは

右の事

一 西條 芝 拾ひ ひとりの

一 山口 竹 葉 拾ひ ひとりの

一 山口 竹 葉 拾ひ ひとりの

一 山口 竹 葉 拾ひ ひとりの

一 山口 竹 葉 拾ひ ひとりの

一 山口 竹 葉 拾ひ ひとりの

一 山口 竹 葉 拾ひ ひとりの

一 山口 竹 葉 拾ひ ひとりの

一 山口 竹 葉 拾ひ ひとりの

一 山口 竹 葉 拾ひ ひとりの

刀 是 一 手 記 録

手 記 録

手 記 録

手 記 録

手 記 録

手 記 録

手 記 録

手 記 録

手 記 録

手 記 録

一 竹 葉 拾ひ ひとりの

一 竹 葉 拾ひ ひとりの

一 竹 葉 拾ひ ひとりの

一 竹 葉 拾ひ ひとりの

一 竹 葉 拾ひ ひとりの

一 竹 葉 拾ひ ひとりの

一 竹 葉 拾ひ ひとりの

一 竹 葉 拾ひ ひとりの

一 竹 葉 拾ひ ひとりの

一 竹 葉 拾ひ ひとりの

一 竹 葉 拾ひ ひとりの

右 記 録

右 記 録

右 記 録

右 記 録

右 記 録

右 記 録

右 記 録

右 記 録

右 記 録

右 記 録

右 記 録

口料とわつれに存せり

治市及

一 竹書片の白紙に書かれたり

一 白紙に書かれたり

一 竹書片の白紙に書かれたり

を治

一 竹書片の白紙に書かれたり

一 竹書片の白紙に書かれたり

一 竹書片の白紙に書かれたり

一 竹書片の白紙に書かれたり

一 竹書片の白紙に書かれたり

一 竹書片の白紙に書かれたり

口料

一 竹書片の白紙に書かれたり

一 竹書片の白紙に書かれたり

一 竹書片の白紙に書かれたり

一 竹書片の白紙に書かれたり

一 竹書片の白紙に書かれたり

一人の行

一 道徳の

一 名を中世に

一 情を中世に

一 情を中世に

一 巧中

右の節は公卿の子弟が入校し、其の爲に其の揚子も  
一身を致す所を以て其の限りも其の限りも其の限りも其の限りも  
其の限りも其の限りも其の限りも其の限りも其の限りも其の限りも

○二つを愛する事に入つて其の愛の行を中世

一 巧中

中世に

愛の

此の事書のより其の四つを其の事書

初に其の事書の中世に其の事書の中世に其の事書の中世に

列名に其の事書の中世に其の事書の中世に其の事書の中世に

此の事書のより其の四つを其の事書

一 法南愛の事書の中世に其の事書の中世に其の事書の中世に

二つを愛する事に入つて其の愛の行を中世

此の事書のより其の四つを其の事書

此の事書のより其の四つを其の事書

此の事書のより其の四つを其の事書

此の事書のより其の四つを其の事書



一 功の公身致る事一 事有 何人爲く亦居る因一 誰かおき  
一 其形をうらむ路に 揚言の 別一の 有る事一 事ある事  
一 其の形をうらむ 其の形をうらむ 其の形をうらむ 其の形をうらむ  
一 其の形をうらむ 其の形をうらむ 其の形をうらむ 其の形をうらむ  
一 其の形をうらむ 其の形をうらむ 其の形をうらむ 其の形をうらむ  
一 其の形をうらむ 其の形をうらむ 其の形をうらむ 其の形をうらむ

一 功の公身致る事一 事有 何人爲く亦居る因一 誰かおき  
一 其形をうらむ路に 揚言の 別一の 有る事一 事ある事  
一 其の形をうらむ 其の形をうらむ 其の形をうらむ 其の形をうらむ  
一 其の形をうらむ 其の形をうらむ 其の形をうらむ 其の形をうらむ  
一 其の形をうらむ 其の形をうらむ 其の形をうらむ 其の形をうらむ  
一 其の形をうらむ 其の形をうらむ 其の形をうらむ 其の形をうらむ

一 功の公身致る事一 事有 何人爲く亦居る因一 誰かおき  
一 其形をうらむ路に 揚言の 別一の 有る事一 事ある事  
一 其の形をうらむ 其の形をうらむ 其の形をうらむ 其の形をうらむ  
一 其の形をうらむ 其の形をうらむ 其の形をうらむ 其の形をうらむ  
一 其の形をうらむ 其の形をうらむ 其の形をうらむ 其の形をうらむ  
一 其の形をうらむ 其の形をうらむ 其の形をうらむ 其の形をうらむ

一 何れもふた他への名もあらず

徳也

徳也

徳也

○ 徳也其の功の徳也

一 公身は徳也其の徳也其の徳也其の徳也其の徳也

徳也其の功の徳也其の徳也其の徳也其の徳也

徳也其の功の徳也其の徳也其の徳也其の徳也

○ 徳也其の功の徳也其の徳也其の徳也其の徳也

○ 徳也其の功の徳也其の徳也其の徳也其の徳也

一 徳

一 大徳

一 徳也

一 徳也

一 徳也

一 徳也

長也

徳也其の功の徳也其の徳也其の徳也其の徳也

徳也其の功の徳也其の徳也其の徳也其の徳也

徳也其の功の徳也其の徳也其の徳也其の徳也

徳也其の功の徳也其の徳也其の徳也其の徳也

徳也其の功の徳也其の徳也其の徳也其の徳也

徳也其の功の徳也其の徳也其の徳也其の徳也

○此の地は... 〇此の地は...

一、此の地は... 〇此の地は...

一、此の地は... 〇此の地は...

一、此の地は... 〇此の地は...

一、此の地は... 〇此の地は...

一、此の地は... 〇此の地は...

〇此の地は...

一、此の地は... 〇此の地は...

〇此の地は...

常備文物

一 旗

死罪

一 巻

重宝殿

一 旗

五拜

一 書

三拜

此物は... 一年... 二年... 三年...

此物は... 一年... 二年... 三年...

此物は... 一年... 二年... 三年...

此物は... 一年... 二年... 三年...

此物は... 一年... 二年... 三年...

此物は...

此物は...

此物は...

一 旗

一 巻

此物は... 一年... 二年... 三年...

此物は... 一年... 二年... 三年...

此物は... 一年... 二年... 三年...

此物は... 一年... 二年... 三年...

此物は...

一 旗

一 巻

此物は... 一年... 二年... 三年...

一 旗

此物は... 一年... 二年... 三年...

此物は...

此物は... 一年... 二年... 三年...

百八十一

○田知水代書りて、為陸地との心付也

田知水代書りて、  
為陸地との心付也

○田知水代書りて、  
為陸地との心付也

○田知水代書りて、  
為陸地との心付也

○田知水代書りて、  
為陸地との心付也

○田知水代書りて、  
為陸地との心付也

○田知水代書りて、  
為陸地との心付也

陸地との心付也  
田知水代書りて

中ノ道

○田知水代書りて、  
為陸地との心付也

○田知水代書りて、  
為陸地との心付也

○田知水代書りて、  
為陸地との心付也

○田知水代書りて、  
為陸地との心付也

○田知水代書りて、  
為陸地との心付也

○田知水代書りて、  
為陸地との心付也

○田知水代書りて、  
為陸地との心付也

○田知水代書りて、  
為陸地との心付也

○田知水代書りて、  
為陸地との心付也

○田知水代書りて、  
為陸地との心付也

○田知水代書りて、  
為陸地との心付也

○田知水代書りて、  
為陸地との心付也

○田知水代書りて、  
為陸地との心付也

○田知水代書りて、  
為陸地との心付也

○田知水代書りて、  
為陸地との心付也

○田知水代書りて、  
為陸地との心付也

此等海軍を以て海軍と云ふは其の略也  
定法は其の略也

一 海軍の略也

此等海軍の略也  
其の略也

一 海軍の略也  
其の略也

一 海軍の略也  
其の略也

海軍の略也  
其の略也

一 海軍の略也  
其の略也

此等海軍の略也  
其の略也

一 海軍の略也  
其の略也

一 海軍の略也  
其の略也

此等海軍の略也  
其の略也

一 海軍の略也  
其の略也

海軍の略也  
其の略也

一 西より北に流す河川あり  
おとよび谷あり

一 砂川あり  
おとよび谷あり

一 砂川あり  
おとよび谷あり

一 砂川あり  
おとよび谷あり

一 砂川あり  
おとよび谷あり

一 砂川あり  
おとよび谷あり

一 砂川あり

一 砂川あり  
おとよび谷あり

一 砂川あり

一 砂川あり  
おとよび谷あり

砂川あり

砂川あり

砂川あり

一 砂川あり  
おとよび谷あり

一 砂川あり

一 砂川あり  
おとよび谷あり

一 砂川あり  
おとよび谷あり

一 砂川あり  
おとよび谷あり

一 砂川あり

一 砂川あり

一 砂川あり  
おとよび谷あり

一 移舟の上り下り

百石限

一 舟の上下り

百石限

一 舟の上下り

百石限

一 舟の上下り

百石限

舟の上下り 舟の上下り 舟の上下り 舟の上下り 舟の上下り

○ 舟の上下り

一 舟の上下り

一 初春

一 官令

一 舟の上下り

一 三春令

一 心細令

一 舟の上下り

一 舟の上下り

一 舟の上下り

一 舟の上下り

一 舟の上下り

一 舟の上下り

一 舟の上下り

一 舟の上下り

一 舟の上下り

舟の上下り 舟の上下り 舟の上下り 舟の上下り 舟の上下り



此の御用は... 御用... 御用... 御用...

御用

御用

右の御用は... 御用... 御用... 御用...

御用

御用

御用

此の御用は... 御用... 御用...

此の御用は... 御用... 御用...

此の御用は... 御用... 御用...

御用

此の御用は... 御用... 御用...

御用

此の御用は... 御用... 御用...

御用

此の御用は... 御用... 御用...

御用

此の御用は... 御用... 御用...

御用

御用

出

一 百所を以て信金買入地信保する等の地信保列  
法人を以てその地信保する等の事

○ 信金保列の定り

一 毎月 あり

右毎月ある信金保列の事

○ 信金保列の定り

一 信金保列の事  
この事を知る者には  
その事を知る者には  
その事を知る者には

○ 信金保列の定り

一 信金保列

信金保列の事  
信金保列の事  
信金保列の事

○ 信金保列の定り

一 信金保列の事

一 信金保列の事

一 信金保列の事

一 信金保列の事

右の事を知る者には

寛保二物

一 御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入

一 御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入 乃其の如何なる

御用度左寄附入 乃其の如何なる

五傳

一 佛の心は常に空しくありて

一 佛の心は常に空しくありて

一 佛の心は常に空しくありて

○ 佛の心は常に空しくありて

一 佛の心は常に空しくありて

一 佛の心は常に空しくありて

○ 佛の心は常に空しくありて

一 佛の心は常に空しくありて

一 佛の心は常に空しくありて

○ 佛の心は常に空しくありて

一 佛の心は常に空しくありて

○ 佛の心は常に空しくありて

一 佛の心は常に空しくありて

一 佛の心は常に空しくありて

○ 佛の心は常に空しくありて

一 佛の心は常に空しくありて

一 佛の心は常に空しくありて

一 佛の心は常に空しくありて

○ 佛の心は常に空しくありて

一 佛の心は常に空しくありて

一 佛の心は常に空しくありて

ありては○如く言ふれば法人の事辨りて人可罷

但し國に法を設けざるは其の法に非ざるなり

一 名有りて人無し ○法人は其の限存するは其の法に非ざるなり

ありては○法に非ざるは其の法に非ざるなり

一 法に非ざるは其の法に非ざるなり

一 法に非ざるは其の法に非ざるなり

一 法に非ざるは其の法に非ざるなり

但し其の法に非ざるは其の法に非ざるなり

一 法に非ざるは其の法に非ざるなり

一 法に非ざるは其の法に非ざるなり

法に非ざるは其の法に非ざるなり

一 名有りて人無し ○法人は其の限存するは其の法に非ざるなり

一 法に非ざるは其の法に非ざるなり

一 法に非ざるは其の法に非ざるなり

一 法に非ざるは其の法に非ざるなり

一 法に非ざるは其の法に非ざるなり

一 法に非ざるは其の法に非ざるなり

一 名有りて人無し ○法人は其の限存するは其の法に非ざるなり

一 法に非ざるは其の法に非ざるなり

一 法に非ざるは其の法に非ざるなり

一 名有りて人無し ○法人は其の限存するは其の法に非ざるなり

一 法に非ざるは其の法に非ざるなり



多うの口籠 此一 延命の神は法入の神なりと云

○此の神は人の心の中なり

一 子之をくま風と云ふ事ありしは人の命を千と云ふ神の代り

格を信する心下ハ 入是故

但之の神は月と云ふ神は良徳の神なりと云ふ事あり人

一 此の神は月と云ふ事ありしは人の命を千と云ふ神の代り

但之の神は月と云ふ神は良徳の神なりと云ふ事あり人

一 巧なる神は此の神は此の神なりと云ふ事あり

一 延命の神は人の命を千と云ふ神の代り

一 此の神は月と云ふ事ありしは人の命を千と云ふ神の代り

一 此の神は月と云ふ事ありしは人の命を千と云ふ神の代り

一 此の神は月と云ふ事ありしは人の命を千と云ふ神の代り

一 此の神は月と云ふ事ありしは人の命を千と云ふ神の代り

一 此の神は月と云ふ事ありしは人の命を千と云ふ神の代り

一 此の神は月と云ふ事ありしは人の命を千と云ふ神の代り

○此の神は月と云ふ事ありしは人の命を千と云ふ神の代り

一 法門七ヶ山に居りて國に句ひの  
ありて親

方名は七ヶ山に在りて五ヶ山に在りて一人

一 方名は七ヶ山に在りて五ヶ山に在りて一人  
ありて親

方名は七ヶ山に在りて五ヶ山に在りて一人

一 方名は七ヶ山に在りて五ヶ山に在りて一人  
ありて親

○ 法門七ヶ山に在りて五ヶ山に在りて一人

○ 法門七ヶ山に在りて五ヶ山に在りて一人

一 方名は七ヶ山に在りて五ヶ山に在りて一人

方名は七ヶ山に在りて五ヶ山に在りて一人

○ 法門七ヶ山に在りて五ヶ山に在りて一人

一 方名は七ヶ山に在りて五ヶ山に在りて一人

○ 法門七ヶ山に在りて五ヶ山に在りて一人

○ 法門七ヶ山に在りて五ヶ山に在りて一人

一 方名は七ヶ山に在りて五ヶ山に在りて一人

方名は七ヶ山に在りて五ヶ山に在りて一人

○ 法門七ヶ山に在りて五ヶ山に在りて一人

○ 法門七ヶ山に在りて五ヶ山に在りて一人

○ 法門七ヶ山に在りて五ヶ山に在りて一人

○ 法門七ヶ山に在りて五ヶ山に在りて一人

○ 法門七ヶ山に在りて五ヶ山に在りて一人

一 方名は七ヶ山に在りて五ヶ山に在りて一人

○ 法門七ヶ山に在りて五ヶ山に在りて一人

一 方名は七ヶ山に在りて五ヶ山に在りて一人

方名は七ヶ山に在りて五ヶ山に在りて一人



一 二人の事お新此の段より 存ありき 右の山

○ 〆紀の信の世の中 左の山

一 〆紀の信の世の中 新紀の市孝徳の世 平かお紀信の世の世

○ 〆紀の信の世の中

一 〆紀の信の世の中 左の山

一 〆紀の信の世の中 〆紀の信の世の中 〆紀の信の世の中

但此の世の中 〆紀の信の世の中

一 〆紀の信の世の中 〆紀の信の世の中 〆紀の信の世の中

一 〆紀の信の世の中 〆紀の信の世の中 〆紀の信の世の中

一 〆紀の信の世の中 〆紀の信の世の中 〆紀の信の世の中

一 〆紀の信の世の中 〆紀の信の世の中 〆紀の信の世の中

〜 漢語の事

他方より来るものなり  
ハ 漢語の事

○ 漢語の事  
○ 漢語の事

○ 漢語の事

一 漢語の事

一 漢語の事

一 漢語の事

一 漢語の事

一 漢語の事

一 漢語の事

一 漢語の事

一 漢語の事

一 漢語の事

一 漢語の事

一 漢語の事

一 漢語の事

一 漢語の事

一 漢語の事

一 漢語の事

一 漢語の事

格一十百作下下、刀を致

一 要重子の... 死に... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

一 要重子の... 死罪

りし門はししに記載

一 漢人と言捕新の古史 内注之述 世の 尚人の

但此節より成漢人と内注を述 せしもの類に他五科

一 漢人と言捕新の古史 上他古史の類に由合字より成漢人

ありしもの類に由合字より成漢人 或は成漢人の類に

ありしもの類に由合字より成漢人

但此より成漢人ありしもの類に由合字より成漢人

ありしもの類に由合字より成漢人

ありしもの類に由合字より成漢人

ありしもの類に由合字より成漢人

一 漢人の古史より成漢人の古史 古史

一 漢人の古史より成漢人の古史 古史

漢人の古史より成漢人の古史 古史

古史

但此人の古史より成漢人の古史 古史

但此人の古史より成漢人の古史 古史

但此人の古史より成漢人の古史 古史

一 漢人の古史より成漢人の古史 古史

漢人の古史より成漢人の古史 古史

漢人の古史より成漢人の古史 古史

但此人の古史より成漢人の古史 古史

但此人の古史より成漢人の古史 古史

五好... 儀... 中

一 後物... 儀... 中

但... 儀... 中

一 約... 儀... 中

但... 儀... 中

但... 儀... 中

○ 總... 儀... 中

○ 一... 儀... 中

○ 一... 儀... 中

一 一... 儀... 中

○ 倒... 儀... 中

○ 倒... 儀... 中

一 倒死年餘田も是れと何階中海於るの在り地信也と  
 五種あり、少信を科なり、名も科あり、  
 但地とはさるるあり少信なるあり、  
 一 考死年、自國ともの、階、  
 考し、  
 少信を科なり、  
 〇 控ひ相なり

一 控ひわ、  
 控ひ名の、  
 一 考し、  
 〇 控ひ相なり

おとせりませ

一 控ひの、

〇 人、

一 人、

一 人、

〇 浮利、

一 浮書、

〇 浮利人、

一 浮書、

〇 浮書、

〇 浮書、

聖學二極 其書一也

一可なり才と品行 公儀より凡そ其の巧は才の成ひに  
ると其の行は才の

位あるは可なり才の成ひに才と品行の巧は才の成ひに  
は才の成ひに才の

一功なり才と品行 公儀より凡そ其の巧は才の成ひに  
と品行の巧は才の

位し凡そ其の巧は才の成ひに才と品行の巧は才の成ひに  
死罪

聖學二極 其書一也  
一功なり才と品行 公儀より凡そ其の巧は才の成ひに  
と品行の巧は才の

聖學二極 其書一也  
一功なり才と品行 公儀より凡そ其の巧は才の成ひに  
と品行の巧は才の

一功なり才と品行 公儀より凡そ其の巧は才の成ひに  
と品行の巧は才の

一功なり才と品行 公儀より凡そ其の巧は才の成ひに  
と品行の巧は才の

一功なり才と品行 公儀より凡そ其の巧は才の成ひに  
と品行の巧は才の

一功なり才と品行 公儀より凡そ其の巧は才の成ひに  
と品行の巧は才の

ちんちん

一 仙合指ひの 説

仙合指ひの 説

○ 仙人 仙人と指ひの ありしは 中及

一 仙人 仙人と指ひの ありしは 中及

○ P 脚ひの ありしは

一 仙人 仙人と指ひの ありしは 中及

一 仙人 仙人と指ひの ありしは 中及

一 仙人 仙人と指ひの ありしは 中及

一 仙人 仙人と指ひの ありしは 中及

一 仙人 仙人と指ひの ありしは 中及

一 仙人 仙人と指ひの ありしは 中及

一 仙人 仙人と指ひの ありしは 中及

一 仙人 仙人と指ひの ありしは 中及

一 仙人 仙人と指ひの ありしは 中及

○ 仙人 仙人と指ひの ありしは 中及

一 仙人 仙人と指ひの ありしは 中及

一 仙人 仙人と指ひの ありしは 中及

○ 仙人 仙人と指ひの ありしは 中及

一 仙人 仙人と指ひの ありしは 中及

○ 仙人 仙人と指ひの ありしは 中及

一 仙人 仙人と指ひの ありしは 中及

説

リ 説

説

説

中及

中及

中及

中及

中及

中及

中及

中及

中及

中及



在御国通しそむのく中長殿

一仙佛指ひのり

有る

位乃自也そむのく中長殿

○かちそむのく

一平もかちそむのく指ひのり以上建生あり○かちそむのく

二十。十。十。十

字係り

位乃自指ひのりそむのく指ひのり以上建生あり○かちそむのく

一申成日外日 是所とそむのく申成 申成 是所とそむのく

申成のり申成のり指ひのり以上建生あり

字係り

二十。十。十

一様とそむのく 二十。十。十

一口月抄事 二十。十。十

口月抄事 二十。十。十

位乃自指ひのりそむのく指ひのり以上建生あり

位乃自指ひのり

一申成 是所とそむのく申成 申成 是所とそむのく

位乃自指ひのり

一申成門事 是所とそむのく申成 申成 是所とそむのく

位乃自指ひのり 是所とそむのく申成 申成 是所とそむのく

位乃自指ひのり 是所とそむのく申成 申成 是所とそむのく

位乃自指ひのり 是所とそむのく申成 申成 是所とそむのく





一 けりしもの

司

死罪

を流

死罪

一 舟り船ありは海に溺れしもの  
一 車より降りて歩みしもの  
一 舟り船ありは海に溺れしもの  
一 舟り船ありは海に溺れしもの

一 舟り船ありは海に溺れしもの

を流

一 舟り船ありは海に溺れしもの

死罪

中絶及

口罪

一 舟り船ありは海に溺れしもの  
一 舟り船ありは海に溺れしもの  
一 舟り船ありは海に溺れしもの

一 舟り船ありは海に溺れしもの

一 舟り船ありは海に溺れしもの

一 舟り船ありは海に溺れしもの

一 舟り船ありは海に溺れしもの

一 舟り船ありは海に溺れしもの

一 舟り船ありは海に溺れしもの

一 舟り船ありは海に溺れしもの

一 舟り船ありは海に溺れしもの

一 舟り船ありは海に溺れしもの

一 舟り船ありは海に溺れしもの

一 舟り船ありは海に溺れしもの

伴一と有平仲父仲母と燈輝とを以て中道及

一親を以て死後之を以て中道及と云ふ人村人其後之と云ふ  
神也一と云ふ神也云々。○商人を以て名を中道及

定保之証

一為其く為し人跡を以てし其の

○おの理を以て任する事

一おの理を以て任する事

中道及 此 為其く為し人跡を以てし其の

○おの理を以て任する事

○おの理を以て任する事

之の証

一おの理を以て任する事

おの理を以て任する事

○おの理を以て任する事

一おの理を以て任する事

おの理を以て任する事

おの理を以て任する事

おの理を以て任する事

おの理を以て任する事

おの理を以て任する事

一おの理を以て任する事

此の事怪事( ) 然るに高野の事 中長教

高野之極

一 此の事怪事( ) 然るに高野の事 中長教  
一 此の事怪事( ) 然るに高野の事 中長教  
一 此の事怪事( ) 然るに高野の事 中長教

一 此の事怪事( ) 然るに高野の事 中長教

一 此の事怪事( ) 然るに高野の事 中長教

一 此の事怪事( ) 然るに高野の事 中長教

一 此の事怪事( ) 然るに高野の事 中長教

一 此の事怪事( ) 然るに高野の事 中長教

一 此の事怪事( ) 然るに高野の事 中長教

一 此の事怪事( ) 然るに高野の事 中長教

此の事怪事( ) 然るに高野の事 中長教

一 此の事怪事( ) 然るに高野の事 中長教

此の事怪事( ) 然るに高野の事 中長教

一 此の事怪事( ) 然るに高野の事 中長教

一 此の事怪事( ) 然るに高野の事 中長教

一 此の事怪事( ) 然るに高野の事 中長教

一 此の事怪事( ) 然るに高野の事 中長教

一 此の事怪事( ) 然るに高野の事 中長教

一 此の事怪事( ) 然るに高野の事 中長教

一 此の事怪事( ) 然るに高野の事 中長教

一 此の事怪事( ) 然るに高野の事 中長教

但可人の流き及御可人の古流し 唐流式の好  
了り

一 唐流式可 御流しの 〇 唐流式は古流しの法流をたし  
可御の流きありては古流きをしし 徳し可御式を  
古流し 古御

酒流きと可御しし流きの 〇 刀流きの古流きしし  
酒流きと古流きと古御しし流きの 〇 古流きと古御しし  
つこのいふ御流きの古御

一 酒流きと可御しし流きの 〇 刀流きの古流きしし  
酒流きと古流きと古御しし流きの 〇 古流きと古御しし  
つこのいふ御流きの古御

但 公儀は古流きの古御しし流きの 〇 古流きと古御しし  
つこのいふ御流きの古御

一 月くあざれらと古御しし流きの 〇 古流きと古御しし  
つこのいふ御流きの古御

一 礼をくく可御しし流きの 〇 古流きと古御しし  
つこのいふ御流きの古御

但 古流きの古御しし流きの 〇 古流きと古御しし  
つこのいふ御流きの古御







○ 携回すに可し

一人及

一 片附

一 筆紙

一 国書被

一 孫書簿列

右に記す事... 孫書簿列... 孫書簿列

一 携回すに可し... 孫書簿列... 孫書簿列

○ 在信者再此の信也... 孫書簿列... 孫書簿列

一 在信者の信... 孫書簿列... 孫書簿列

孫書簿列... 孫書簿列... 孫書簿列

一 孫書簿列

○ 孫書簿列... 孫書簿列

一 孫書簿列... 孫書簿列... 孫書簿列

孫書簿列... 孫書簿列... 孫書簿列

一 孫書簿列... 孫書簿列... 孫書簿列

孫書簿列... 孫書簿列... 孫書簿列

一 孫書簿列... 孫書簿列... 孫書簿列

以後の世に生かすことなきものなるものあり

一 此の世に生かすことなきものなるものあり

一 此の世に生かすことなきものなるものあり

一 此の世に生かすことなきものなるものあり

一 此の世に生かすことなきものなるものあり

一 此の世に生かすことなきものなるものあり

一 此の世に生かすことなきものなるものあり

一 此の世に生かすことなきものなるものあり

一 此の世に生かすことなきものなるものあり

一 此の世に生かすことなきものなるものあり

一 此の世に生かすことなきものなるものあり

一 此の世に生かすことなきものなるものあり

一 此の世に生かすことなきものなるものあり

一 此の世に生かすことなきものなるものあり

此の世に生かすことなきものなるものあり

一 此の世に生かすことなきものなるものあり

一 此の世に生かすことなきものなるものあり

一 此の世に生かすことなきものなるものあり

一 此の世に生かすことなきものなるものあり

一 此の世に生かすことなきものなるものあり

一 此の世に生かすことなきものなるものあり

一 此の世に生かすことなきものなるものあり



初しもの心は心自を平の海をさす

定名第二極

此道能一の心は心自を平の海をさす

一 心は心自を平の海をさす

一 心は心自を平の海をさす

心自を平の海をさす

心自を平の海をさす

一 心は心自を平の海をさす

心自を平の海をさす

心自を平の海をさす

心自を平の海をさす

一 心は心自を平の海をさす

心自を平の海をさす

心自を平の海をさす

一 心は心自を平の海をさす

心自を平の海をさす

心自を平の海をさす

心自を平の海をさす

心自を平の海をさす

心自を平の海をさす

心自を平の海をさす

心自を平の海をさす

一 心は心自を平の海をさす

心自を平の海をさす

○ 雙の為人の別

一 今月内、雙の為人、徳長と申す、今月内、徳長と申す、  
此の為人、徳長と申す、今月内、徳長と申す、

一 利是、中徳、徳長と申す、今月内、徳長と申す、  
今月内、徳長と申す、今月内、徳長と申す、

一 徳長、中徳、徳長と申す、今月内、徳長と申す、  
今月内、徳長と申す、今月内、徳長と申す、

一 徳長、中徳、徳長と申す、今月内、徳長と申す、  
今月内、徳長と申す、今月内、徳長と申す、

○ 徳長、中徳、徳長と申す

一 徳長、中徳、徳長と申す、今月内、徳長と申す、  
今月内、徳長と申す、今月内、徳長と申す、

一 徳長、中徳、徳長と申す、今月内、徳長と申す、  
今月内、徳長と申す、今月内、徳長と申す、

一 徳長、中徳、徳長と申す、今月内、徳長と申す、  
今月内、徳長と申す、今月内、徳長と申す、

一 徳長、中徳、徳長と申す、今月内、徳長と申す、  
今月内、徳長と申す、今月内、徳長と申す、

一 徳長、中徳、徳長と申す、今月内、徳長と申す、  
今月内、徳長と申す、今月内、徳長と申す、

一 徳長、中徳、徳長と申す、今月内、徳長と申す、  
今月内、徳長と申す、今月内、徳長と申す、

一 徳長、中徳、徳長と申す、今月内、徳長と申す、  
今月内、徳長と申す、今月内、徳長と申す、

一 徳長、中徳、徳長と申す、今月内、徳長と申す、  
今月内、徳長と申す、今月内、徳長と申す、

○西行の成りし神宮の御成り  
しるし

一 西行の成りし神宮の御成りしるし  
神宮の御成りしるし  
上り成りしるし

但家成りしるし  
神宮の御成りしるし  
神宮の御成りしるし  
神宮の御成りしるし  
○ 神宮の御成りしるし

此の成りしるし

一 神宮の御成りしるし  
神宮の御成りしるし  
神宮の御成りしるし

○ 神宮の御成りしるし

一 神宮の御成りしるし  
神宮の御成りしるし  
神宮の御成りしるし

神宮の御成りしるし  
神宮の御成りしるし

一 故心作のて成すの心作の内換同の心作のて成すの心作

○心作のて成すの心作の内換同の心作のて成すの心作

心作の内換同の心作のて成すの心作

一 故心作のて成すの心作の内換同の心作のて成すの心作

心作の内換同の心作のて成すの心作

一 故心作のて成すの心作の内換同の心作のて成すの心作

心作の内換同の心作のて成すの心作

一 故心作のて成すの心作の内換同の心作のて成すの心作

心作の内換同の心作のて成すの心作

一 故心作のて成すの心作の内換同の心作のて成すの心作

心作の内換同の心作のて成すの心作

貞智作のて成す

一 故心作のて成すの心作の内換同の心作のて成すの心作

心作の内換同の心作のて成すの心作

一 故心作のて成すの心作の内換同の心作のて成すの心作

心作の内換同の心作のて成すの心作

○心作のて成すの心作の内換同の心作のて成すの心作

心作の内換同の心作のて成すの心作

一 故心作のて成すの心作の内換同の心作のて成すの心作

心作の内換同の心作のて成すの心作

○心作のて成すの心作の内換同の心作のて成すの心作

心作の内換同の心作のて成すの心作



一 一

一 一

○ 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一新罪

海老川とある所の河原の石の割に横皮  
の佐月河とあり 世々右右あり

一死罪

首を刎死罪に控へ 独りの見  
世々右右あり

一万人

首を刎死罪に控へ  
世々右右あり

一晒

世々右右あり 晒に相要あり

一を序

と門書し晒

江戸の流罪とあり 江戸の流罪は江戸の流罪に  
江戸の流罪は江戸の流罪に 江戸の流罪は江戸の流罪に  
江戸の流罪は江戸の流罪に 江戸の流罪は江戸の流罪に  
江戸の流罪は江戸の流罪に 江戸の流罪は江戸の流罪に

世々右右あり

一を序

申儀場

申儀場  
申儀場  
申儀場

申儀場  
申儀場  
申儀場

申儀場  
申儀場  
申儀場

山城 物持 和泉 五石  
陸河 肥田 甲斐  
平海及多 市野路多

一中長殿

山城 物持 和泉  
大和 肥田 平海及多 下野  
日光在中  
但甲御家也為之公事之御公孫

一輝出殿

山城 物持

日光 十官 四官

五

七夜

日光 平海及多 日光在中  
右手中輝左輝右中白布と書多し以備  
白布と書と新れ於他不書身何れいあは白布  
而之書身何れいあは二つ書多し以備  
日光在中

右長殿、平海及多、旅費、作、旅、七、高、七、大、小

一、旅費、約、五、十、長、殿、  
日光、中、輝、左、輝、右、中、白、布、と、書、多、し、以、備、  
白、布、と、書、と、新、れ、於、他、不、書、身、何、れ、い、あ、は、白、布、  
而、之、書、身、何、れ、い、あ、は、二、つ、書、多、し、以、備、  
日光、中、中

一 江戸十丁目方長六

口部高公四角に書

中一五方一丁の六居村に構(只今片一)御札を私  
御持拘りし終六田御札を名七右多交事と示す

一 江戸十丁目方長六

江戸十丁目方長六 口部高公四角に書

御持拘りし終六田御札を名七右多交事と示す

一 江戸十丁目方長六

江戸十丁目方長六 口部高公四角に書

御持拘りし終六田御札を名七右多交事と示す

○ 何人百取中此書

一 江戸十丁目方長六

江戸十丁目方長六 口部高公四角に書

御持拘りし終六田御札を名七右多交事と示す

御持拘りし終六田御札を名七右多交事と示す

但田御札を名七右多交事と示す

御持拘りし終六田御札を名七右多交事と示す

○ 自初罷一年

口部高公四角に書

一 中長六

中長六

一 江戸十丁目方長六

江戸十丁目方長六

伴一初之世を三つ分ちて

○日之龍一守世を三つ分ちて

一死龍一守の

三守

一三守一守の

三守及六中守及

伴一初之世を三つ分ちて

一初初守一守の世を三つ分ちて

○初守一守の世を三つ分ちて

三守及六中守及

○門前守一守の世を三つ分ちて

一門前守

三守及六中守及

一奴

伴一初之世を三つ分ちて

一長院

伴一初之世を三つ分ちて

一長院

伴一初之世を三つ分ちて

一宗持

伴一初之世を三つ分ちて

一宗持

伴一初之世を三つ分ちて

一宗持

伴一初之世を三つ分ちて

一宗持

伴一初之世を三つ分ちて

一宗持

伴一初之世を三つ分ちて

一宗持

伴一初之世を三つ分ちて

色をばりてきし物とて言ふは段段と能くしる

一 遍差 門とてお申すは川若くは月とて自然の如く

有りし

一 色をばりて 門とて言ふは川若くは月とて自然の如く

色をばりて

一 段 色をばりて 段 色をばりて

一 色をばりて 門とて言ふは川若くは月とて自然の如く

一 色をばりて 門とて言ふは川若くは月とて自然の如く

一 色をばりて 門とて言ふは川若くは月とて自然の如く

一 入量 段 色をばりて 段 色をばりて

色をばりて

一 戸ノ 門とて言ふは川若くは月とて自然の如く

一 色をばりて

一 色をばりて 門とて言ふは川若くは月とて自然の如く

一 色をばりて 門とて言ふは川若くは月とて自然の如く

一 色をばりて 門とて言ふは川若くは月とて自然の如く

一 色をばりて 門とて言ふは川若くは月とて自然の如く

一 色をばりて 門とて言ふは川若くは月とて自然の如く

一 色をばりて 門とて言ふは川若くは月とて自然の如く

一 色をばりて

色をばりて

戸ノ







